

## ■ユーザカスタマイズ留意事項 (2014.11.6)

本資料は、日レセのバージョン4.8.0での仕様変更により、ユーザ作成プログラム等で対応が必要となることについて解説するものです。

### 1 診療会計情報の剤回数管理方法変更について

バージョン4.7.0までは、同一日の受診4回目以降の剤回数を3回目のテーブルに累積していました。バージョン4.8.0からは、最大9回目まで管理するように変更しました。

#### (1) 診療会計テーブルの診療回数テーブル格納方法変更イメージ

再診1回、同日再診3回の場合

バージョン4.7.0 (診療回数テーブル [テーブル数: 4])

再診

1 : 合計	1
2 : 1回目	1
3 : 2回目	
4 : 3回目以降	

同日再診

1 : 合計	3
2 : 1回目	
3 : 2回目	1
4 : 3回目以降	2

バージョン4.8.0 (診療回数テーブル [テーブル数: 10])

再診

1 : 合計	1
2 : 1回目	1
3 : 2回目	
4 : 3回目	
5 : 4回目	
~	
10 : 9回目	

同日再診

1 : 合計	3
2 : 1回目	
3 : 2回目	1
4 : 3回目	1
5 : 4回目	1
~	
10 : 9回目	

#### (2) COPY 句の変更内容

CPSRYACCT. INC の変更内容です。

```

--- /var/chroot/anoncvs/cvs/jma-receipt/cobol/copy/CPSRYACCT. INC      2010/01/07
07:07:28      1.6
+++ /var/chroot/anoncvs/cvs/jma-receipt/cobol/copy/CPSRYACCT. INC      2013/01/18
06:28:30      1.7
@@ -21,6 +21,7 @@
*****
*   コピー句修正履歴
*   Maj/Min/Rev   修正者      日付      内容
+   *   04.08.00   NACL-多々納  13/01/11  診療回数テーブル10対応
*****
*01   SRYACCT-REC.
```

```

03 ACCT-KEY.
@@ -71,8 +72,10 @@
      ACCT-TEIGENRATE          PIC 9(03).
*診療回数テーブル
03 ACCT-DAY-AREA.
- *      診療回数テーブル (1:合計, 2: 1 回, 3: 2 回, 4: 3 回以上)
-      04 ACCT-DAY-TBL          OCCURS 4.
+ ***** 診療回数テーブル (1:合計, 2: 1 回, 3: 2 回, 4: 3 回以上)
+ ***** 04 ACCT-DAY-TBL          OCCURS 4.
+ *      診療回数テーブル (1:合計, 2~10: 1 回~ 9 回)
+      04 ACCT-DAY-TBL          OCCURS 10.
+ *      診療回数 (1 日から 31 日)
+      05 ACCT-DAY-1            PIC 9(03).
+      05 ACCT-DAY-2            PIC 9(03).
@@ -106,8 +109,10 @@
      05 ACCT-DAY-30            PIC 9(03).
      05 ACCT-DAY-31            PIC 9(03).
03 ACCT-DAY-AREA-R              REDEFINES ACCT-DAY-AREA.
- *      診療回数テーブル (1:合計, 2: 1 回, 3: 2 回, 4: 3 回以上)
-      05 ACCT-DAY-TBL2          OCCURS 4.
+ ***** 診療回数テーブル (1:合計, 2: 1 回, 3: 2 回, 4: 3 回、5: 4 回)
+ ***** 05 ACCT-DAY-TBL2          OCCURS 4.
+ *      診療回数テーブル (1:合計, 2~10: 1 回~ 9 回)
+      05 ACCT-DAY-TBL2          OCCURS 10.
+      07 ACCT-DAY              PIC 9(03)
+                                OCCURS 31.

*端末 I D

```

### (3) プログラムの変更対応

診療回数テーブルのインデックス 1 は、合計回数を記録しています。

統計や会計カードなど受診毎の内容を扱わない場合（診療回数テーブルのインデックス 1 のみを参照する）は、プログラムの変更対応は必要ありません。

処方せんや診療費明細書など受診毎の内容を扱う場合（診療回数テーブルのインデックス 2 以降を参照する）は、プログラムの変更対応が必要です。

この場合は、ほとんどが受診履歴テーブルとの関係によりデータ参照していると思われるので、その部分を確認していただくと修正方法について理解が進むと思われます。

受診履歴テーブル  
連番

1 回目受診	1
2 回目受診	2
3 回目受診	3
4 回目受診	4

→  
→  
→  
→

診療会計テーブル  
診療回数テーブルのインデックス

1	1 日合計
2	1 回目受診
3	2 回目受診
4	3 回目受診
5	4 回目受診

～	～
9 回目受診	9

～	～
1 0	9 回目受診

#### (4) ソースプログラムの変更内容

例として処方せんプログラム (ORCHC02QV02. CBL) の修正内容を掲載します。

```

--- /var/chroot/anoncvs/cvs/jma-receipt/cobol/common/ORCHC02QV02. CBL    2012/11/26
09:42:19          1. 18
+++ /var/chroot/anoncvs/cvs/jma-receipt/cobol/common/ORCHC02QV02. CBL    2013/01/18
06:28:28          1. 19
@@ -78,6 +78,7 @@
    * 04.06.00      NACL-多々納  12/04/10  一般名 1 0 0 文字対応
    *                                     含量規格変更不可等の対応
    * 04.06.00      NACL-多々納  12/09/27  医師コード等編集対応
+   * 04.08.00      NACL-多々納  13/01/11  診療回数テーブル 1 0 対応
    *****
    *
    *
@@ -2317,9 +2318,10 @@
            MOVE      JYURRK-ZAINUM (IDX-JYU) TO  WRK-ZAINUM
            COMPUTE  IDX-REN          =  JYURRK-RENNUM
                                   +  1
-           IF      IDX-REN          >  4
-           MOVE      4              TO  IDX-REN
-           END-IF
+   *ver. 4. 8
+   *           IF      IDX-REN          >  4
+   *           MOVE      4              TO  IDX-REN
+   * *****   END-IF
                PERFORM 2002-SRYACT-SYORI-SEC
            END-PERFORM
    *

```

#### (5) 診療会計テーブルのデータ整合処理の実施

診療会計テーブルに記録された回数テーブルを調べて、3 回目以降の受診について回数が累積記録されている場合は、正しい受診回数にあった診療回数テーブルにセットし直す必要があります。

この処理を『システムパッケージリリース情報【Version 4.8.0】』の「1-13 診療会計テーブルのデータ整合処理」にて説明していますので、必ず実施してください。

## 2 医薬品画像データの管理方法変更について

バージョン 4.7.0 までは、医薬品画像データはファイルにより管理していました。バージョン 4.8.0 からは、データベースにテーブルを新設し、医薬品画像データを base64 変換して格納し管理するように変更しました。

また、この管理方法変更に伴い再印刷を不可とするようにしました。

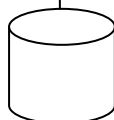
## (1) 医薬品画像データの管理方法変更イメージ

例として、610443074 タミフルカプセル75 75mgで説明します。

## バージョン 4.7.0

## 薬剤情報テーブル

診療行為コード (医薬品コード)	610443074
画像ファイル名	/var/lib/jma-receipt/medphoto/01/610443074-610443074_3643.jpg



画像ファイル

/var/lib/jma-receipt/medphoto/01  
610443074-610443074\_3643.jpg

## バージョン 4.8.0

## 薬剤情報テーブル

診療行為コード (医薬品コード)	610443074
画像ファイル名	610443074_3643.jpg

※ファイル名のみ

## 薬剤情報画像テーブル (新設)

診療行為コード (医薬品コード)	610443074
画像イメージ (base64 形式)	AQEBAEBA/AAAAAAAAAA/9j/4AAQSk . . .

## (2) プログラムの変更対応

monpe で画像データを表示するには、実体のファイルを準備してファイル名を指定する必要があります。

このため、薬剤情報画像テーブルから該当医薬品の base64 データをデコードしてファイルを生成するサブルーチンを準備しました。

サブルーチン名：ORCSMLOAD ※詳細は資料末尾に記載

画像ファイルの場所は、一時ディレクトリの下の“medimage”ディレクトリの下にします。

## (3) ソースプログラムの変更内容

例としてお薬情報プログラム (ORCHC30.CBL) の修正内容を掲載します。

※一時ディレクトリ対応を含みます。

@@ -56,6 +56,7 @@

```

* 04.05.02  NACL-森脇      10/01/25  コメント2、単位対応
* 04.06.00  NACL-多々納    11/02/28  用法コメント対応
* 04.08.00  NACL-多々納    14/07/30  一時ディレクトリ対応
+ * 04.08.01  NACL-森脇      14/08/08  画像イメージ作成機能追加

```

ORCA Project

Copyright(C)2014 Japan Medical Association. All rights reserved.

```

*****
*
*      ENVIRONMENT          DIVISION.
@@ -247,6 +248,21 @@
*      03 WRK-PARA-NAME          PIC X(25).
*      03 WRK-PARA              PIC X(50).
*
+      01 FILE-IMAGE            PIC X(512).
+      *
+      01 WRK-CONS-AREA.
+      *      画像ファイルフォルダ名
+      03 WRK-CONS-MEDIMGDIR PIC X(08)  VALUE  "medimage".
+      *
+      *      画像イメージ作成パラメタ
+      COPY  "CPORCSMIAREA.INC".
+      *
*****
*      ファイルレイアウト
*****
@@ -377,6 +393,14 @@
*
*      ORCSMKPASSAREA
*      MOVE  MKPASS-OT-01  TO  FILE-NAME
*
+      *      一時ファイル名取得
+      INITIALIZE          SGETTEMP-AREA
+      CALL  "ORCSGETTEMP"  USING
+      SGETTEMP-AREA
+      MOVE  SGETTEMP-FULLNAME TO  ASGNPARA
+      *
+      *      プログラムオプション設定
+      INITIALIZE          PARA-AREA
+      *      薬剤形状
@@ -683,14 +707,35 @@
*
*      画像が存在すればセットする
*      IF  YAKUJYO-PHOTO  NOT =  SPACE
+      *      データからイメージファイル作成
+      INITIALIZE          ORCSMIAREA
+      MOVE  YAKUJYO-SRYCD  TO  ORCSMI-SRYCD
+      MOVE  SGETTEMP-TEMPDIR
+      TO  ORCSMI-TEMPDIR
+      MOVE  YAKUJYO-PHOTO  TO  ORCSMI-FILENAME
+      CALL  "ORCSMILOAD"  USING
+      ORCSMIAREA
+      SPA-AREA
+      *

```

```

+          MOVE      SPACE          TO  FILE-IMAGE
+          STRING    SGETTEMP-TEMPDIR DELIMITED BY SPACE
+          WRK-CONS-MEDIMGDIR DELIMITED BY SPACE
+          "/"        DELIMITED BY SIZE
+          YAKUJYO-PHOTO DELIMITED BY SPACE
+          INTO      FILE-IMAGE
+
+          END-STRING
+          INITIALIZE          ORCSFILECHKAREA
-          MOVE      YAKUJYO-PHOTO TO  FILECHK-NAME
+          MOVE      FILE-IMAGE    TO  FILECHK-NAME
+          CALL      "ORCSFILECHK"  USING
+                                ORCSFILECHKAREA
+
+          IF        FILECHK-RC    =  ZERO
-          MOVE      YAKUJYO-PHOTO TO  WRK-YKJ-GAZO
+          MOVE      FILE-IMAGE    TO  WRK-YKJ-GAZO
+          MOVE      1              TO  FLG-OK
+
+          END-IF
+
+          END-IF

```

再印刷を不可とする修正です。

```

--- /var/chroot/anoncvs/cvs/jma-receipt/cobol/common/ORCHC30. CBL      2014/08/11
02:38:18      1. 73
+++ /var/chroot/anoncvs/cvs/jma-receipt/cobol/common/ORCHC30. CBL      2014/08/28
06:17:36      1. 74
@@ -1590,9 +1590,13 @@
+          MOVE      SYS-1031-PRTNM(8)
+                                TO  MKPRT-PRTNM
+          MOVE      "お薬情報"    TO  MKPRT-INFO
-          CALL      "ORCSMKPRT1"  USING
+
+          *----- (04. 08. 01) ---UPD-START---
+          *      再印刷しない
+          *      CALL      "ORCSMKPRT1"      USING
+          *      CALL      "ORCSMKPRT"      USING
+                                ORCSMKPRTAREA
+                                SPA-AREA
+
+          *----- (04. 08. 01) ---UPD-END-----
+          *
+
+          400-PRT-WRITE-EXT.

```

#### (4) 医薬品画像取り込み処理の実施

4.8.0 ヘアアップグレード後に、4.7.0 で使用していた画像データを薬剤情報画像テーブルへ取り込む必要があります。

この処理を『システムパッケージリリース情報【Version 4.8.0】』の「1-7 医薬品画像取り込み処理」にて説明していますので、必ず実施してください。

### 3 MCP-TEMPDIR により指定された一時ディレクトリの使用について

オンライン・バッチ処理で使用するファイルは、原則、ミドルウェア側で準備した一時ディレクトリ下においてのみ作成することにしました。

#### (1) ミドルウェアの仕様概要

- \* セッション開始時にセッション用の一時ディレクトリを作成する
  - \* 作成した一時ディレクトリのパスを MCP-TEMPDIR に格納して APS (COBOL モジュール) に渡す
  - \* 一時ディレクトリはセッション終了後しばらくは残す (期間は実装依存)
    - \* セッション終了前に起動したバッチ処理がアクセスする可能性があるため
  - \* MCP-TEMPDIR のパスは以下ようになる
    - \* `<prefix>/<termid=uuid>/`
      - \* 例 `/tmp/jma-tempdir/d2c5667e-0ebc-11e3-b28e-d726ff7758b2`
  - \* `prefix` は `wfc` の `-tempdirroot` で指定される
    - \* デフォルトは `/tmp/panda_root` (日レセは `jma-tempdir` とする)
  - \* `wfc` 起動時に `prefix` のパスを有無に関わらず削除してから作成する
    - \* 作成できない場合はエラー終了する
  - \* APS トランザクション開始時に以下の MCPAREA の内容を環境変数に設定する
    - ・ `MCP_WINDOW` ... イベントのウィンドウ
    - ・ `MCP_WIDGET` ... イベントのウィジェット
    - ・ `MCP_EVENT` ... イベントのイベント
    - ・ `MCP_TENANT` ... ユーザの医療機関 ID、通常版では"1"固定
    - ・ `MCP_TERM` ... ユーザの `termid`
    - ・ `MCP_USER` ... ユーザ名
    - ・ `MCP_HOST` ... ユーザのホストの IP アドレス
    - ・ `MCP_TEMPDIR` ... ユーザの一時ディレクトリ
- これらの環境変数は APS から起動したバッチプロセスに引き継がれる。

#### (2) COBOL プログラムの改造

＜オンライン帳票の場合＞

ORCHC03V03. GBL (外来請求書兼領収書) を例として改造のヒントとなる部分について説明します。

①ASSIGN 句によりファイルを指定している変数の定義力所を確認します。

CONFIGURATION	SECTION.
INPUT-OUTPUT	SECTION.
FILE-CONTROL.	
*	
* 印刷用データ	
- SELECT PRT-FILE	ASSIGN HC01PARA
+@@@@@* アサイン名を変更	
+ * SELECT PRT-FILE	ASSIGN HC01PARA
+ SELECT PRT-FILE	ASSIGN ASGNPARA
	FILE STATUS IS STS-PARA.
(省略)	
*	
* 印刷用データ 名称領域	
COPY "CPCOMMONPRT. INC".	
+@@@@@* ファイル名編集用のコピー句を追加	
+ COPY "CPASGNPARA. INC".	
* シェル用領域	
**** COPY "CPCOMMONSHELL. INC".	

HC01PARA (COPY 句 CPCOMMONPRT. INC) では、/tmp を固定としていたので新しく ASGNPARA (COPY 句 CPASGNPARA. INC) を使用するように変更します。(ファイル名の編集はこれまでと同様に HC01PARAで行うため、変数は残しておく。)

#### CPASGNPARA. INC の内容

*****	
*	
* 一時ファイル名称領域	CPTMPFL. INC
*	
*****	
01 ASGNPARA	PIC X(1024).
01 ASGNPARA-ST	PIC 9(05).



- ②一時ファイル名取得サブプログラム（ORCSGETTEMP）の引数にファイル名（BASENAME）をセットして呼び出し、返却されたファイル名（フルパス）を該当ファイルの変数へ設定します。

※当資料 *APPENDIX*②にサブプログラムの仕様を掲載

```

COPY      "MCPDATA. INC".
*****COPY  "CPORCMCP. INC".
*
+@@@@@*   サブプログラムのコピーを追加
+      *   一時ファイル名編集
+      COPY  "CPORCSGETTEMP. INC".
*
COPY      "MCPAREA".

(省略)

*****
*   帳票印刷開始処理
*****
400-SYOKI-PRINT-SEC          SECTION.
*
*   ファイルOPEN
MOVE      SPA-HOSPNUM        TO  HC01PARA-HOSPNUM
MOVE      "HC03"             TO  HC01PARA-FORM-ID
MOVE      SPA-TERMID         TO  HC01PARA-TERMID
MOVE      SYS-TIME           TO  HC01PARA-SYOHMS
*   変更★★★★★
ADD        1                 TO  WRK-PAGE
MOVE      WRK-PAGE           TO  HC01PARA-CNT
+      *
+@@@@@*   サブプログラムより一時ファイル名の編集を行う。
+@@@@@*   返却値を ASGNPARA に設定する。
+      INITIALIZE              SGETTEMP-AREA
+      MOVE      HC01PARA       TO  SGETTEMP-BASENAME
+      CALL      "ORCSGETTEMP"  USING
+      SGETTEMP-AREA
+      MOVE      SGETTEMP-FULLNAME TO  ASGNPARA
+      *
OPEN      OUTPUT              PRT-FILE
*
.
400-SYOKI-PRINT-EXT.
EXIT.

```

## ③帳票印刷サブプログラムの引数を変更します。

(下記例のサブプログラム [ORCSMKPRT1] はカスタマイズプログラムでは [ORCSMKPRTSITE1] となる。)

```

*
      INITIALIZE                ORCSMKPRTAREA
      MOVE  "HC01.sh"           TO  MKPRT-ID
***** MOVE  "HC03.dia"         TO  MKPRT-DIA
***** MOVE  "HC03.def"         TO  MKPRT-DEF
      MOVE  WRK-FORMID          TO  MKPRT-DIA
      MOVE  SPACE               TO  MKPRT-DEF
-      MOVE  HC01PARA            TO  MKPRT-DAT
+***** アサイン名の編集項目を変更
+      MOVE  ASGNPARA            TO  MKPRT-DAT
      MOVE  SYS-1031-PRTNM(3)    TO  MKPRT-PRTNM
      IF    ( ORCHC03-PARAFLG    =    1 )
          AND ( ORCHC03-PARA-GYUMUID = "SU1" )
              MOVE  "請求書兼領収書(修正)"
                  TO  MKPRT-INFO
      ELSE
          MOVE  "請求書兼領収書"
              TO  MKPRT-INFO
      END-IF
      CALL  "ORCSMKPRT1"        USING
                                ORCSMKPRTAREA
                                SPA-AREA

```

## &lt;日次・月次帳票の場合&gt;

ORCBG007.CBL(会計カード)を例として改造のヒントとなる部分について説明します。

## ①ファイル名用 COPY 句 CPCOMMONDAT2. INC を使用している部分について、プログラムで拡張子を編集しないようにします。

```

      COPY  "CPCOMMONDAT2. INC"

                                REPLACING  //RECE01//
                                BY          //ORCBG00701//.
-      03  FILLER                PIC X(04)  VALUE  ". dat".
+***** ファイル名に拡張子を別途編集している場合は削除する。
+      *  03  FILLER                PIC X(04)  VALUE  ". dat".

```

- ②エラーファイル名用の変数を COPY 句に変更する。  
 (項目長の変更(→1024 バイト)および編集方法統一の為)

```

+@@@@@* エラーファイル名用のコピー句を追加
+ COPY "CPRECEERR. INC".
*
* ステータス領域
01 STS-AREA.

(省略)

03 WRK-PARA-JOBID PIC 9(07).
03 WRK-PARA-SHELLID PIC X(08).
03 WRK-PARA-HOSPNUM PIC 9(02).
- 03 RECEERR PIC X(100).
+@@@@@* エラーファイル名はコピー句を使用する。
+ * 03 RECEERR PIC X(100).
03 WRK-PARA-SRYYM PIC X(06).
03 WRK-PARA-PTNUM PIC X(20).
03 WRK-PARA-NYUGAIKBN PIC X(01).

```

- ③一時ファイル名取得サブプログラム（ORCSGETTEMP）の引数にファイル名（BASENAME）をセットして呼び出し、返却されたファイル名（フルパス）を該当ファイルの変数へ設定します。

※当資料 *APPENDIX②*にサブプログラムの仕様を掲載

```

*01  MCPDATA-REC                      PIC X(5000).
      COPY    "MCPDATA. INC".
*****COPY    "CPORCMCP. INC".
*
+@@@@@*      サブプログラムのコピーを追加
+      *      一時ファイル名編集
+      COPY    "CPORCSGETTEMP. INC".

(省略)

grpsys  INITIALIZE                      SPA-AREA
        INITIALIZE                      WRK-PARA
+@@@@@*      エラーファイル名初期化
+      INITIALIZE                      RECEERR
*
        PERFORM 100-DBOPEN-SEC
*
(省略)

                                JOBKANRI-REC
                                SPA-AREA
*
+      INITIALIZE                      SGETTEMP-AREA
+      *
        MOVE    WRK-PARA-HOSPNUM      TO  ORCBG00701PARA-HOSPNUM
        MOVE    "BG00701"              TO  ORCBG00701PARA-FILE-ID
        MOVE    LNK-PRTKANRI-TERMID    TO  ORCBG00701PARA-TERMID
*
+      MOVE    ORCBG00701PARA-BASENAME
+      TO      SGETTEMP-BASENAMES (1)
+      MOVE    RECEERR                  TO  SGETTEMP-BASENAMES (2)
+      CALL    "ORCSGETTEMP"           USING
+      SGETTEMP-AREA
+      MOVE    SGETTEMP-FULLNAMES (1)
+      TO      ORCBG00701PARA-FULLNAME
+      MOVE    SGETTEMP-FULLNAMES (2)
+      TO      RECEERR
+      *
*      印刷パラメタエリアセット処理
        PERFORM 110-ORCSPTARFA-SFT-SFC

```

### <ASSIGN 句の変更について>

日次・月次帳票はオンライン帳票の修正とは異なり、ASSIGN 句の変更はしていません。

ファイル名の編集は初期処理の中で1回のみ行なっていますので、COPY 句

CPCOMMONDAT2. INC の内容を変更することで対応しています。

オンライン帳票の場合はプログラム内で1ページ分のデータを編集する毎にファイル名編集用の変数(HC01PARA)の内容を更新してファイル名の変更を行っている為、変更後のファイル名に一時ディレクトリを付加した内容を別の変数(ASGNPARA)に設定し、ASSIGN 句についてもそれを使用するように変更しています。

日次・月次帳票についてもファイル名が1回の処理で繰り返し変更される場合は、オンライン帳票のようにファイル名編集用の変数とは別に ASSIGN 句用の変数を用意します。

### (3) シェルスクリプトの改造

例外となるケースを除き、決め打ちのディレクトリを指定してはいけません。

ファイルの場所を意識しないようにします。

recept1. sh を例として改造のヒントとなる部分について説明します。

- ①処理キャンセル、処理異常の検知のためエラーファイルを使用していますが、このファイル名を COBOL 側でパスを含まないファイル名のみとするか、一時ディレクトリ付きのフルパスとするか決定します。パラメタの作り方によってスクリプトの修正が異なりますので注意します。説明ではファイル名のみとする。

```
#          0:全体  1:社保  2:国保
#          $4 エラーファイル名
#          $5  JOBID
```

- ②パラメタのエラーファイル名の指定を正しくします。

\$4 はファイル名のみなので、**環境変数 MCP\_TEMPDIR** 下に作成します。

```
#-----#
-##      エラーファイル削除
-      echo $#
-      echo "echo " $4
-      if [ -e $4 ]; then
-          rm $4
-      fi
-
-      rm -f /var/tmp/RECE0*
-      rm -f /var/tmp/RECE11*
-      rm -f /var/tmp/RECE12*
-
-      rm -f /tmp/${16}00RECE0*
-      rm -f /tmp/${16}00RECE11*
-      rm -f /tmp/${16}00RECE12*
```

(省略)

```
##      エラーファイル削除
+      echo "errfile = [" ${MCP_TEMPDIR}/${4} "]" >> $LOG_FILE
+      rm -f ${MCP_TEMPDIR}/${4}
+
+      rm -f ${MCP_TEMPDIR}/${16}00RECE0*
+      rm -f ${MCP_TEMPDIR}/${16}00RECE11*
+      rm -f ${MCP_TEMPDIR}/${16}00RECE12*
```

(省略)

```
$DBSTUB -dir $LDDIRECTORY -bd orcabt ORCR0010 -parameter
$1$2$3$5$6,${18},${16},${4} >> $LOG_FILE 2>&1

-      if [ -e $4 ]; then
+      if [ -e ${MCP_TEMPDIR}/${4} ]; then
            exit
        else
            $DBSTUB -dir $LDDIRECTORY -bd orcabt ORCR0020 -parameter
            $1$3$5$6,${16},${4} >> $LOG_FILE 2>&1
        fi
```

③/var/tmp、/tmp 等は使用しない。

```
          $DBSTUB -dir $LDDIRECTORY -bd orcabt ORCBJOB -parameter  
JBE$5$6,${16} >> $LOG_FILE 2>&1  
  
-          rm -f /tmp/${16} OORECE0*  
-          rm -f /tmp/${16} OORECE11*  
-          rm -f /tmp/${16} OORECE12*  
+          rm -f ${MCP_TEMPDIR}/${16} OORECE0*  
+          rm -f ${MCP_TEMPDIR}/${16} OORECE11*  
+          rm -f ${MCP_TEMPDIR}/${16} OORECE12*  
  
          fi  
  
          exit
```

(4) ここで説明した修正内容は、一例であり全ての処理内容を熟知した上での修正方法ではありません。

オンライン、バッチそれぞれ COBOL プログラムでファイルを使用するものはすべて修正する必要があります。

なお、業務により決められたディレクトリへファイルを作成する必要がある場合（システム連携等）、システム管理でユーザにより出力するディレクトリやファイル名を設定する場合はケースにより対処が必要となります。

*Appendix*

## ① 薬剤イメージ読込サブプログラム（ORCSMILOAD）の仕様

## 薬剤イメージ読込サブプログラム

処理概要 指定した医薬品コードの薬剤イメージを薬剤情報画像テーブルから読み、base64 デコード処理を行い、指定されたディレクトリ下の medimage ディレクトリにファイルを作成する。

## ○入力引数

ORCSMI-SRYCD X(09)

... 医薬品コード

ORCSMI-IMAGEKBN 9(01) ※未使用

... 画像の種類 (1:裸体、2:P T P 包装、3:その他)

ORCSMI-TEMPDIR X(1024)

... 一時ディレクトリ名 (画像ファイルを作成するディレクトリ)

※実際には一時ディレクトリの下に medimage ディレクトリを作成する

ORCSMI-FILENAME X(128)

... 画像ファイル名

## ○返却値

ORCSMI-RETCOD 9(01)

... 結果コード (0:成功、0 以外 : エラー)

## ○呼び出し例

```

MOVE  YAKUJYO-SRYCD  TO  ORCSMI-SRYCD
MOVE  SGETTEMP-TEMPDIR
                                TO  ORCSMI-TEMPDIR
MOVE  YAKUJYO-PHOTO  TO  ORCSMI-FILENAME
CALL  "ORCSMILOAD"      USING
                                ORCSMIAREA
                                SPA-AREA

```



## ② 一時ファイル名取得サブプログラム (ORCSGETTEMP) の仕様

## 一時ファイル名取得サブプログラム

処理概要 入力引数のファイル名に一時ディレクトリ名を編集し返却を行う。

## ○入力引数

SGETTEMP-BASENAME X(1024)  
 ... 一時ファイル名  
 SGETTEMP-BASENAMES X(1024) OCCURS 10  
 ... 一時ファイル名 (複数指定を行う場合)

## ○返却値

SGETTEMP-ST  
 ... 一時作業ディレクトリ付きファイル名の中のファイル名開始位置 (開始位置の  
 カウントは1から)  
 (例) FULLNAME=/tmp/hoge.txt の場合 (6文字目からがファイル名)  
 SGETTEMP-ST=6

SGETTEMP-TEMPDIR X(1024)  
 ... 一時ディレクトリ名 (末尾に/が編集されている)

SGETTEMP-FULLNAME X(1024)  
 ... 一時作業ディレクトリ付きファイル名 (SGETTEMP-BASENAME に対応)

SGETTEMP-FULLNAMES X(1024) OCCURS 10  
 ... 一時作業ディレクトリ付きファイル名 (SGETTEMP-BASENAMES に対応)

## ○呼び出し例

```

      INITIALIZE                SGETTEMP-AREA
      MOVE    "HOGE.txt"        TO  SGETTEMP-BASENAME
      CALL    "ORCSGETTEMP"     USING
                                SGETTEMP-AREA
*    $ {MCP_TEMPDIR} /HOGE
      MOVE    SGETTEMP-FULLNAME
                                TO  WRK-FULLNAME
  
```